



# 農の未来ネット NO.35

特定非営利活動（NPO）法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620）

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

## サロン学習会

### 地域を愛し、地域に生きる

#### 福島県矢祭町の農業法人でんばた

#### 「農の未来ネット」編集長

西村 正昭

4月28日、NPO 食農研センター・ワークショップ・フェアビンデンで農業法人でんばた取締役の鈴木正美さんを講師に迎えてサロン学習会を開き、20人が参加しました。地域を愛し、地域に生き、農業再生で福島県矢祭町の活性化をめざす鈴木さんの話は、参加者に感動を与えました。

矢祭町（やまつりまち）は東北の玄関口・福島県東南端に位置し、阿武隈山系と八溝山系にはさまれた森林8割を占める純農村地域。基幹産業は農業であり、規模は一戸50アールの小規模で高齢化がすすんで

います。鈴木さんは町の農協に勤務していましたが、近隣の農協との広域合併にともない「自分の知らない他地域の土質がどのような元肥がいいのかなど農家に責任がとれないことをやりたくない」と11年ほど前に退職。農業法人「でんばた」を立ち上げ、お米や野菜の産地直送を行っています。



【写真】講師の鈴木正美さん（左から3人目）

鈴木さんはスライドをつかいながら矢祭町の風土、土地利用、産業を紹介。若い人が会社勤めにいく中で、農業をやっているのは70歳代から80歳代で農地を守っている現状を説明し、「矢祭町の基幹産業である農業をなくすわけにはいかない」とで

んぱた」を結成した経過を話しました。笑顔で話す鈴木さん。人口が6200人という小さな町ですが、よくもこんなに多彩な取り組みができるかなと思うくらい目を見張るものがあります。宿泊型農業体験「やまつりずむ」、田んぼオーナー、ブルーベリーの木オーナー、矢祭もったいない市場、地産地消のお弁当等々。鈴木さんは「小学校に隣接する田んぼが耕作放棄され防犯上もよくないので、整地作業をしたら石などもあり重機を使ったりして予定よりも経費がかさみ赤字になってしまった。その場所をブルーベリーの農園にして3分の1をオーナー制、3分の2を加工用にしている。イチゴの甘酒が好評なので、ブルーベリーも甘酒にしたい。地元農産物を商品化するだけではなく、都会の人と交流して新たなつながりをつくっていきたい」と意欲を持っています。形が不ぞろいなどのために流通にのらない新鮮なおいしい野菜を「もったいない」からと東京などで月8回ほど出張販売をしています。鈴木さんは「小さな町で手間隙かけて愛情たっぷりに育てられたお米や野菜を多くの人たちに食べてもらいたい」といいます。

矢祭町は東電福島原発から80～90キロに位置していますが、放射能が検出されていません。しかし、鈴木さんは「福島だということだけで売り上げが落ちた」と風評被害の実体験を語ってくれました。

鈴木さんは、福島原発事故にも負けてはいません。森林が8割を占める地域資源を生かす木質バイオマス事業を推進しています。多彩な取り組みを語る鈴木さんの話はあっという間に1時間以上もたっていました。



#### 【写真】鈴木さんご自慢の矢祭米の堪能をはじめとしたオードブル各種

フェアビンデンの石井正江さん、森さんの丹精込めたオードブル、鈴木さんが持参された矢祭米、シイタケを食しながら、矢祭町地酒・南郷などを飲み楽しく懇談し、交流を深めました。



【写真】講師を囲んで乾杯、ウフ・・・

\*みらい体験農場\*

## 種まきの巻

### みらい体験農場長

#### 一之瀬 今朝一(愛称:オラッチ)

4月15日(日)に、稲の育苗箱に種蒔きを行いました。4月3日に種籾を水につけ、10日に種子の消毒をしましたが、すでに古代米やコシヒカリには芽が始めてきたことから14日に種蒔きを予定したのですが、あいにく14日は朝から雨となり15日の種蒔きとなった次第です。

当日は、地主の細田さんが役員をされている団体の花見の日でもあり、8時半には会場作りに出かけるとのことので、ビニールトンネルのビニールのありか、紐のかけ方等の指導を一之瀬が受けました。



【写真】 みんなで力を合わせて種まき

9時には、田沼事務局長、孫のかすみちゃん、武蔵大学の青木さんが到着し、育苗箱への土入れを田沼さんとかすみちゃん(孫と砂場遊びをしている様でほほえましい。)、種蒔き(箱数の管理。)を青木さんに担当していただきました。10時には西村編集長と奥様、そして去年の強力な助っ人の阿部さんも来られ、育苗箱の底に新聞紙を敷く、種子の入った箱の紐を上から押す・土をかける、ジョロで十分に水をかける、トンネルに並べる作業等を分担し、順調に作業は進みました。



【写真】 一之瀬農場長に作業説明を受ける武蔵大生の青木さん(右)

天候にも恵まれ、心地よい庭先での昼休みを過ごし、全ての作業が順調に進んで15時には終わることができました。

4月26日現在、育苗箱の苗はコシヒカリ、ミルキークイーンと古代米が生育が本葉2枚が開き3cm程度、彩の輝きは2.5cm程度と順調に成長しています。細田さんにはこの間、毎日、3時間かけて水をかけて

もらっています。そして、給水はもちろんですがビニールトンネル内の温度管理のため、トンネルの脇の開け閉めも行うなど、田植えまで気の抜けない日々が続くことになります。

なお、畦の除草は、22日(日)、田沼さん、武蔵大学の戸田さん、山本さん、一之瀬で昼までに一応(草の片付けできず。)終わることができました。作業に参加された皆様、お疲れ様でした。そして、学生さんの頼もしいお力添えに感謝です。



**[写真]かすみちゃん(田沼事務局長のお孫さん)と西村幸子さん(西村編集長の奥様)と楽しく作業**

\*\*\*\*\*

### 編集後記

野田首相は5月の連休前にアメリカへ出かけて日米首脳会談(4月30日)で環太平洋連携協定(TPP)への交渉参加を表明するのではないかという緊迫した情勢になっています。4月25日には、日本の食と暮らし・命を守れという思いを一つにした

TPP阻止の集会在東京・日比谷野外音楽堂で昼夜にわたって繰り広げられました。午後は農協中央会をはじめ農林水産業や消費者団体などの実行委員会による4000人参加の国民集会、夕方からは労働組合、農民連、市民団体などの5000人の「キャンドル集会」が開かれました。2008年6月に韓国でアメリカ産牛肉輸入再開に反対する100万人の口ウソクデモが行われましたが、私たち夫婦は偶然にもソウル市での集会を知り参加しました。乳母車に赤ちゃんを乗せた若い母親をはじめ、制服姿の中・高校生、サラリーマン、労働組合員、農民組合員ら韓国の人たちと口ウソクを持って歴史的なたたかひの集会に参加した経験をもっています。目に焼きついている韓国民衆のたたかひの姿を思い浮かべながら「キャンドル集会」に夫婦で参加しました。農協、農民組織、市民団体、女性団体、労働組合組織、医療組織など各階各層が一同に集まったTPP反対の国民的な集会は画期的なものです。集会で「TPPは日本を滅ぶ」という思いを参加者と共有しました。田植えの作業を一時中止して参加した農民の方たちとデモをしながら、もともともっと多くの人たちと一緒にTPP反対の運動を広げ、野田首相の野望を必ず打ち砕きたいとの思いを強くしました。(西村)

\*\*\*\*\*